

# スポーツ川崎

昭和 58 年 4 月 1 日発行  
 川崎市体育協会広報紙  
 編集・発行  
 川崎市体育協会広報委員会  
 〒 210  
 川崎市川崎区砂子 1-8-1  
 川崎市教育委員会体育課内  
 ☎ 044-200-3312

より速く      より強く      より高く      **第8号**

## 五十八年度にむけての抱負

川崎市体育協会  
 理事長 谷口 恭 男

体育協会の理事、評議員をはじめ会員の皆さん、過去一年間市民スポーツの振興のためご指導、ご協力くださいまして誠にありがとうございます。

事業で六十年に開館されること大変嬉しく存じます。ここに市ご当局的深いご理解、ご配慮にしてお礼申し上げます。

多くの事業をふり返って特に申しあげたいことは、過去に体協総会で承認され、検討、準備の後、実施しました「地域スポーツセンター」早期実現のための促進運動であります。私共体育協会と、地域住民組織の全市的な組織である全町内会連合会、同じ体育関係団体であるレクリエーション連盟の三者が協同して夫々の団体の会員にお願いし二十

五十八年度体協関係事業の実施につきましては、昨年度事業の反省と評価に基づき、更に皆さんのご協力をいただきながら諸事業をすすめていきたいと思っておりますが、体協の目的である市内種目団体相互の緊密な連絡協調を図ると共に、市民の体育・スポーツ活動の一層の振興のために各種の体育・スポーツ振興事業を行うことを再認識し、市民による、市民のための体協として前進するよう、つぎの重点を置き、活動の活発化と組織の拡充を図ってまいります。

スポーツ医学講座、救急法講習会の内容の充実。  
 二つは、普及活動の充実・強化についてですが、生涯スポーツの観点から各種スポーツ教室、講習会、研修会等を開催し市民スポーツの一層の普及・振興と諸行事への援助等の推進。

三つは、青少年に対するスポーツの振興についてですが、青少年の健康増進と体力の向上に努め、また生涯を通じて体育・スポーツを実践する能力や態度を養うため、各種スポーツ事業への積極的参加を図る。またスポーツ少年団の育成の強化。

以上、三点ほど申しあげましたが、さらに各種市民大会、広報活動等の充実を図りながら、会員相互の交流を深めると共に体協組織の充実と発展のため共に力を合わせて頑張ります。

以上、三点ほど申しあげましたが、さらに各種市民大会、広報活動等の充実を図りながら、会員相互の交流を深めると共に体協組織の充実と発展のため共に力を合わせて頑張ります。

一月に市当局へ陳情したことです。幸いにして私共体育関係者にとって多年の念願であった地域スポーツセンターが、新聞報道等によると、仮称南部スポーツセンターが五十八年、五十九年の二か年継続

保については、昨年度も実施しすでに定着し好評を博しています。スポーツ教養講座、

保については、昨年度も実施しすでに定着し好評を博しています。スポーツ教養講座、

### 外野席

日本の高齢者人口は一千九百萬人を数えている。今、ここで高齢化社会を研究し、高齢者スポーツの推進策を考えることが急務と思われる。年をとることは自然のことで、嫌悪すべきものでもない。自分の年齢を自覚し年齢にあった生活をする。

そのためにこそスポーツをとり入れるべきだと考える。高齢者スポーツは無理せず、自己のペースでエンジョイするのが良いのだが、高齢者が各種スポーツを楽しむためには、身近かに指導者が必要である。さいわい、市内には、かつて大きな大会等で活躍された選手経験者が相当数在住されている。これらの栄光に輝いた実績を持つ先輩諸兄姉が、高齢者のスポーツ指導者として奉仕して頂けないものであろうか。そうして多くの老人に幸を与えてもらいたい。高齢者スポーツの普及は、すぐれた指導者の育成と活用が今後の課題ではないだろうか。



# 川崎チーム16回目の優勝!

優勝記録3時間38分48秒

1	区	伊藤	久幸	(東)	急)	7,200	m	22'	00"	区	2	位
2	"	前八	俊弘	(市)	役所)	6,500	m	20'	55"	"	2	"
3	"	大川	木明	(中)	川機)	10,000	m	28'	58"	"	1	"
4	"	中森	田修	(向)	岡高)	7,700	m	23'	09"	"	3	"
5	"	森田	葉正	(東)	急)	8,200	m	26'	04"	"	4	"
6	"	千島	長浩	(東)	急)	10,300	m	32'	36"	"	4	"
7	"	長島	本浩	(東)	急)	14,000	m	44'	17"	"	4	"
8	"	橋本	克己	(東)	堀川)	7,200	m	20'	49"	"	2	"

## 第37回郡市対抗駅伝

### Vサインでゴールイン!!

監督(市立商業高校教頭)

芳賀 学人

マネージャー(市役所)

皆川 敏明

第37回郡市対抗駅伝競争大会(県教委・神奈川陸協・読売新聞社主催)は、二月十三日晴れわたった冷えこみのきびしい空のもと二十五郡市チームが参加し小田原市の県立西湘地区体育センター前をスタート、相模湖漕艇場ゴールまでの八区間七十一・一キロのコースで行われた。各チーム白熱したレース展開をするなかで好選手をそろえた川崎市がみごとにチームワークを發揮し三時間三十八分四十八秒のタイムで四年ぶり通算十六度目の優勝を飾った。

川崎チームが横浜チームの三連覇を阻み優勝できたのは八人の選手が各自の力量通り走りきり、監督と選手全員の総合力で頑張ったからである。ちなみに各区間記録を見ると、川崎は前半のポイントとなる三区を走った大八木選手の快走で区間記録を出したが過去十五回の優勝に輝く横浜は一・四・五・八区と四名も

区間記録を出しながら優勝を逃したのは、選手の配置とチームワークの差だと言える。「25回大会から29回大会までを五連覇したときよりもうれしい」と芳賀監督が喜ばれたのは選手一人一人が自分の区間を充分力を出し切って走ってくれ、そして監督が計算していたタイムを上回ったことへの喜びだと思ふ。

年間を通して長距離選手を集め監督と選手が一体となって、市営等々力競技場にて合同練習を積み重ねてきた成果が報いられた優勝であった。監督と選手の健闘に賛辞をおくろう。来年も頑張ってください。



アンカーの橋本選手

※(川崎陸協よりお知らせ) 五十八年度より川崎市陸上競技協会の登録場所が左記に変更になりましたのでお知らせいたします。

川崎区砂子1〜2〜13 塩川方

取扱いは3月末より7月末日までの毎週金・土の午後6時まで受付ける。

△総合成績▽

1位川崎市	3時間38分48秒
2位横浜市	3時間39分34秒
3位秦野市	3時間39分45秒
4位小田原市	3時間42分12秒
5位相模原市	3時間44分54秒
6位厚木市	3時間46分23秒

## 第三回

### 市民スケート大会

開かる

去る二月二十日午後六時より多摩区向ヶ丘遊園スケートリンクにおいて第三回市民スケート大会が行われた。参加者は五十八名で、成績は次のとおりであった。

#### △各種目別優勝者▽

- ▽小学校低学年 二百米と四百米二冠覇す 今井 英人
- ▽小学校高学年 二百米と四百米二冠覇す 今井 智美
- ▽中学校 男子一千米 卜部 崇
- 男子五百米 榎園 義成
- 女子五百米 今井 理恵
- ▽高等学校 男子五百米 青木 宏之
- 男子一千米 佐藤 勉
- ▽一般男子 五百米と一千米二冠覇す 住岡 靖志
- △未登録者▽ 小学校低学年 二百米 根津 洋樹



▽小学校高学年

二百米 佐藤 利江

稲葉 かおり

▽一般男子

五百米と一千米二冠覇す

吉井 征男

▽一般女子

五百米と一千米二冠覇す

高橋美也子

ここのところ残念ながらスケート愛好者が、年々減少してきている。



思えば二十年前、川崎市役所から、バス五・六台をつらねて榛名湖方面に行った時代がしのばれる。愛好者の増加を願っているスケート協会としては腰を据えて、これからの発展を遂げる意味で一層の努力をしていきたい。

本大会は教育委員会の全面的な協力を得て開催できたが市民のみなきさまの暖かいご理解とご支援を期待している。

# 登山技術交流 研修に参加して

日中合同登山技術研修会訪中副隊長 増子春雄

日中合同

昭和五十七年七月二十三日から八月十六日まで、日本山岳協会と中国登山協会の合同登山技術研修会が行なわれた。今回の研修会は、合同で高峰登山をするのではなく、登山技術の研修交流を目的としたもので、日本からは長野県山岳協会のメンバーを中心に十四名、中国側は、登山協会許競副主席を隊長に、登山協会主要メンバーと中国各省、自治区から選ばれた登山者二十一名が参加して、新疆ウイグル自治区天山々脈博格区(ボゴダ)山群で、二週間寝食を共にし、岩登り技術と、氷雪技術の研修を行った。

中国が、近代化政策をとり、文化大革命以来他のスポーツと同じように、非生産的なものとして中断されていた登山活動を復活させ、(エベレスト)に科学技術調査登山で登頂する偉業を成し上げたが、十年間の空白は大きく、登山者層がうすく、特に岩登り技術の遅れは、大きいものと思われた。

無く、登山は中国登山協会の職員と鉄路(鉄道)山岳協会の職員だけであり、言わば国家公務員の職業登山家だけである。昭和五十五年、中国の高峰が海外の登山者に開放され、中国を訪れる登山隊やトレッキング隊が多くなった。これから登山隊や、トレッキング隊の受け入れの窓口業務と連絡官、案内人を引受けること等が、中国登山協会の仕事であるが、自分達の登山の発展も大切な課題である。中国登山協会幹部の方々は、チョモランマ登頂者や、その他高峰登頂の実績を持つ人で構成されているが、現役登山者としては高齢化しており、いわゆる近代登山の発展を以って世界の登山界と肩を並べるまでに、若手指導者の育成が急務となっている。

中国の近代登山の開幕に際し、アメリカ、其の他の国かご尽力で、日本山岳協会と中国登山協会の間で合同研修をする運びとなった。昭和五十六年は、中国から九名が来日

し、北アルプスを中心に岩登り技術と、雪上技術の基礎研修をした。昭和五十七年には日本から中国に行き、研修することになった。訪中を前に中国登山協会と連絡をとりながら、中国が求める登山技術と装備の研究をするとともに参加隊員の訓練をして合同研修に備えた。

七月二十三日、成田より上海経由で北京入りをした。北京空港には、中国登山協会副主席許競先生をはじめ、参加隊員の出迎えを受けた。ホテルには、登山協会史占春副主席をはじめ幹部の方々が見え、深夜にもかかわらず歓迎の宴席が設けられ、我々一行をねぎらってくれた。

席上、史占春先生から「明朝早い出発になるので、何も出来ないが帰りには立派な慰労パーティーをするから、今夜は無礼講でやりましょう」と挨拶があり、午前一時過ぎまで歓談した。

翌日は午前七時に出発し、北京空港で朝食をとりウルムチにむかう。三十分も飛ぶと茶色の砂と岩の山が現われ、砂漠の上に出た。

翌日は午前七時に出発し、北京空港で朝食をとりウルムチにむかう。三十分も飛ぶと茶色の砂と岩の山が現われ、砂漠の上に出た。



広大な砂漠の果てに、時々出現する白銀の山脈が幾重にも連なって見え、機はウルムチに下降を始めた。

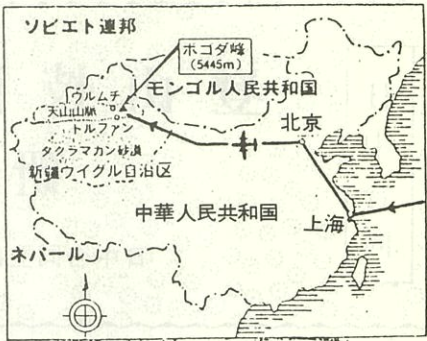
シルクロード天山北路の要所オアシスの町ウルムチは、砂漠の中でゴルフ場の緑のように浮かんで素晴しかった。

炎天下のウルムチ空港には、新疆体育總會々長の呂銘先生をはじめ、先発した中国登山協会王振華総コーチ及び、関係者一同の迎えを受け、宿舎迎賓館に向う。

迎賓館は森の中の洋館で、窓は二重に設けられ、天然冷房のよき室内は広い豪華な部屋だった。

当地に二日間滞在し、中国側と打合せ、入山準備、市内参観、開講式や歓迎パーティーと過密なスケジュールであった。市内はウイグル族が多く、多民族の町で色彩豊かな伝統の民族衣裳をまとった人や人民服姿も数多い。陽気で明るい雰囲気は、昔のシルクロード・オアシスの時代がしのばれた。

研修地ボゴダ山群への入山は、砂漠の中をバスで、天山に通ずる谷筋に入る。



この谷筋の出合には、トウモロコシやひまわりの畑がある。天山からの水が砂漠に入る末端で、このように水気のある所は、農耕が営まれ水の恩恵を改めて感じた。

天山に向って谷筋を進むと砂山にも、ちらほらと緑が現われ、川にも水が流れ、家畜も見られた。進むにつれ牧草と針葉樹林に囲まれた青い鏡のような天池という湖に出た。天池からはキャラバンになるが、入山第一夜は天池南岸の牧草地に幕営した。翌朝、二十五頭の牛を仕立て、日中両国隊員は、必要な荷を背負い將軍溝に沿って、キャラバ

ンがはじまる。進む程に樹林帯から牧草地と岩山に変わり、牧民のバオが点在してくる。ベースキャンプ地はボゴダ峰の西側、標高三千四百米の水河末端の台地で、対岸の牧草地は高山植物の花畑となり、モレーンの岩陰には雪蓮の香り高い花が咲きほこっている。

基地を設営してから日中兩國旗を掲揚し研修の安全を祈願した。

研修生活は、日本隊一〇二名と中国隊二〇三名が一組となり文字通り寝食を共にした。研修内容は、打ち合わせの結果、日本側の全面的指導で、高峰登山の基本技術と応用技術を中心に展開した。中国隊員には初心者もおり、岩登り技術については未経験者が多いので日本隊員がコーチをする形で進めることになった。研修項目ごとに、目的と効果及び、技術解説をして日本隊員がコ

ーチし、その後、合同練習をした。このような形で、個々の技術を習得させ技術の応用で実践し総合技術、応用技術へと発展させた形でもとめた。研修中の言葉の障害は、中国語・日本語・英語・筆談・身ぶり手ぶりで何とか克服した。頭がクラクラするほどの暑さから、一転、氷点下にもなるこの地は、夜空には満天の星と天の川が輝き、満月に照らされた氷河の山は、形容の

り安全な範囲内で、各々パーティーを組んでボゴダ周辺の登山をし、夫々想い出の足跡を残してきた。そして中国隊との共同生活も天池南岸で最後の日を迎えた。

しようがない程に素晴らしい。合同訓練の総合編は、日中隊員による合同登山でしめくった。これは四日間にわたる岩壁、氷雪訓練、テント生活での両国隊員の友情を基礎に無名の処女峰、四千二十一米地点へのアタックとなった。難易度や標高に物足りなさもあったが、未登峰には違わずに日中兩國の国旗を誇らしげに振って、写真撮影をした。最後の縦走登山のため、ボゴダ内院へのベースキャンプ移動は降雪に見まわれ、翌日も降雪と氷河の状態も悪いことから中止となった。その変わり安全な範囲内で、各々パーティーを組んでボゴダ周辺の登山をし、夫々想い出の足跡を残してきた。そして中国隊との共同生活も天池南岸で最後の日を迎えた。



ボゴダ山系

はるか、あなたに思い出のボゴダ山群を眺め、今回の登山活動をふりかえって話しながら、別れを惜しみながら全員で肩を組み「雪山讃歌」の大合唱で、今回の日中合同登山技術訓練は無事その幕を閉じた。

天池から炎天下のウルムチで一泊、灼熱のトルファンへ向け、半日ほどバスで砂漠を走りつづけた。ここで二日間史跡めぐりをし、再びウルム



チに戻った。ウルムチでは豪華な新疆料理で我々をもてなしてくれた。翌日、呂銘先生をはじめ中国隊員と関係者一同の見送りを受け北京に飛びたった。

北京二日間の滞在中、万里の長城、明の十三陵、故宮天壇公園や北京市内を觀て回り、のしどろしどろであった。

最後の夜は人民大会堂でお別れパーティーを開いてくれた。中国登山協会喬華金主席から、日本隊員一人一人に中国製ビッケルと記念品、高度到達証明書が手渡され、中華体育總會や中国登山協会等の関係者達と歓談し、我々は感激のしどろしどろであった。

翌朝、登山協会の史点春先生はじめ関係者一同の見送りを受け帰国した。

今回の登山技術交流をふりかえってみると、中国隊員の誠実さ、人柄の良さと熱意、礼儀正しさを、我々が見習う点が多かったこと。研究熱心さをもってすれば

中国の高峰登山技術も、近い将来は他のスポーツ種目と同様に、目ざましい発展を遂げると思われること。

また我々は、単に高峰登山技術を教えるだけでなく、生活の中に根づいた登山文化の中で含めた友好の芽を育てることが、これまで以上に求められたい。

## また起こす “東芝旋風”

— 東芝男子バスケット部 —

新春のビックイイベント。第五十八回全日本総合バスケットボール選手権大会は一月四日より開始され、決勝戦を迎えた一月九日、代々木第二体育館は、超満員、立すいの余地もない。

▽準決勝

松下 66 (31 | 23) 51 日本鋼管 (35 | 28)

▽準々決勝

東芝 77 (39 | 36) 74 日本鋼管 (38 | 38)

▽準決勝

東芝 66 (36 | 37) 63 住友金属 (30 | 26)

順当勝ちの松下電器に対し、若さと汗と天の利を得て決勝戦を手中にした東芝との戦いは、バスケットファンにとっ

ては興味ある一戦であった。

決勝進出の経過をみると、

▽準々決勝  
松下 74 (38 | 24) 48 日本大学 (36 | 24)

新参者が、古豪日本鋼管及び住友金属を倒しての決勝進出

前半の十三点差は、東芝にとってはまずまずのところ、

試合で、百二十三得点、平均

名門松下電器に対しても、ただではすまないだろうという期待があったのかも知れない。

松下にとっては、スタートで四十一点をあげ、意気盛んで決をつけられなかった予想外の前半戦。逆転の東芝と異名にこたえて大暴れ、一点を争う死闘となった。

松下 66 (40 | 26) 65 東芝 (27 | 38)

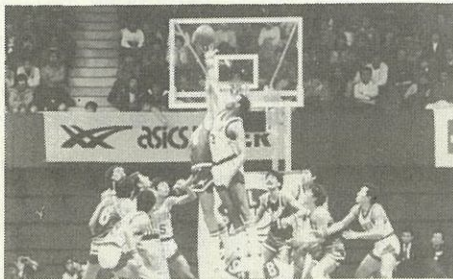
スタートより、松下のきびしいディフェンスと東芝のスピードが激突。突き放そうとする松下と執ようにくい下がる東芝、一投ごとに場内にならず潮のような歓声が目よめき、うねっている。

テレビ解説者も、近年にない素晴らしいゲームと評価を下して

いた。東芝の大黒柱のフレディ・J・カウン(二

十四才)、身長、川崎で育った二百三樞、体重、東芝チームが、今年度のリーグ戦で又、旋風を巻き起こし、

栄光の座を目指し活躍することであろう。市民の期待に必ずやこたえるであろう。



称「フレッド」は、このたびの大会でも準々決勝からの三



スポーツ今昔

— 昭和30年 —

都市対抗に大活躍

東芝女子バレーボール部

昭和二十五年当時、東芝専務取締役久野元治氏が、神奈川県実業団体体育連盟の会長に就任され、その頃東芝のスポーツの振興は断然他社を圧していた。

久野専務のスポーツに対する関心は強く、東芝が各種関東大会等に出場の場合、その都度観戦すると言ふ熱の入れ方に、比較的スポーツ音痴の厚生課長は、さぞとまどった事だろうと推察される。

久野専務のスポーツ観は、スポーツ選手は、忍耐と誠実で、職場規律を守り明るい職場関係を作る功績を深く認識した結果であった事と信ずる。

全東芝女子バレーボール部の拡充には、並々ならぬ努力を払い当時の関東女子バレーの名門校、茨城県水海道、埼



玉泉久喜、県内では厚木東、平沼、横須賀より活躍選手を採用し、選手層を厚くし各種大会優勝の原動力を築いた。

昭和二十八年より全国都市対抗バレーボール大会が大阪府立体育館において開催され、本大会に本県代表として初参加し、二十九年、三十年と連続出場。これらの選手は堀川町工場に、かけ足五分の浅野監督宅の無料開放により、朝五時起床、同工場で七時まで練習、朝食後、各事業所で勤務し、夕方再び堀川町に集合し、浅野監督、鳥生コーチのもとに猛練習の甲斐あって昭和三十年には全国ベスト8にはいった。

「日中親善サッカー大会開催される」

念願の等々力競技場内の公式サッカー場が完成し、日中国交正常化十周年記念事業として川崎市の姉妹都市である中国の瀋陽市を迎えて日中親善サッカー大会が開催された。

試合に先だち十二月十一日正午からセレモニーが行われ、来賓の挨拶、花束贈呈、市長の始球式などが行われた。

試合は第一戦が読売クラブ第二戦が日本鋼管、第三戦が東芝と日本リーグI・II部チームを相手に組まれた。

対する瀋陽市選抜チームは平均年齢二十歳学生中心のチームで三戦ともスピードのあるゲーム展開で白熱した試合を見せてくれたが、若さが裏目に出て結果として三試合とも得点をあげることができなかった。

会場には寒さにもかかわらず毎試合三千名ちかくの熱心なサッカーファンが観戦につめかけ、素晴らしいプレーにさかんな声援を送っていた。

△試合結果▽

第一戦	読売クラブ	3	(1-0)	瀋陽選抜	0
第二戦	日本鋼管	2	(1-0)	瀋陽選抜	0
第三戦	東芝	0	(0-0)	瀋陽選抜	0

全日本オールド  
パワースキー大会  
開催される

群馬県スキー連盟が実行委員会となりスキーOB選手にもう一度、松舞台に登場して元氣一杯頑張ってもらおうとの主旨でオールドパワースキー大会が二月二十一日(月)草津町で開かれた。

午前十時、清水沢コース、大回転バーンにおいて、男子六十才代の部参加、田中正誼選手(六十二才・いすず川崎所属)がめでたく第三位に入賞した。

女子も五十才代の部に参加した、丸山礼子選手(五十二才・川崎スキー所属)が第三位に入賞した。両選手の輝かしい、この入賞を皆でたたえ

たい。  
おめでとう!!  
これからも若々しい、力強いスキーを楽しんでください。  
△過去の戦歴▽  
○田中選手  
第五回赤倉会場 優勝  
第六回田沢湖会場 準優勝  
○丸山選手  
第五回赤倉会場 第六位  
第六回田沢湖会場 第四位

編集後記

暖冬の五十八年幕明けでした。昨年暮れから暖かく、大寒あたりから、ようやく冬らしくなり、寒さ本番と思う間もなく、春のさざしが見えはじめました。

春という季節は、寒くなったり暖かくなったりを繰り返す身体のコントロールが出来るまで私達をじっと待っていてくれたような気がします。

第八号は、編集内部の反省から、読みやすく、好まれる機関誌にするべく、色々工夫して形を変えて編集してみました。

新しい年を迎え、「スポーツ川崎」の充実をめざして編集員一同、張切っております。

みなさまも身体に気をつけて活躍してください。